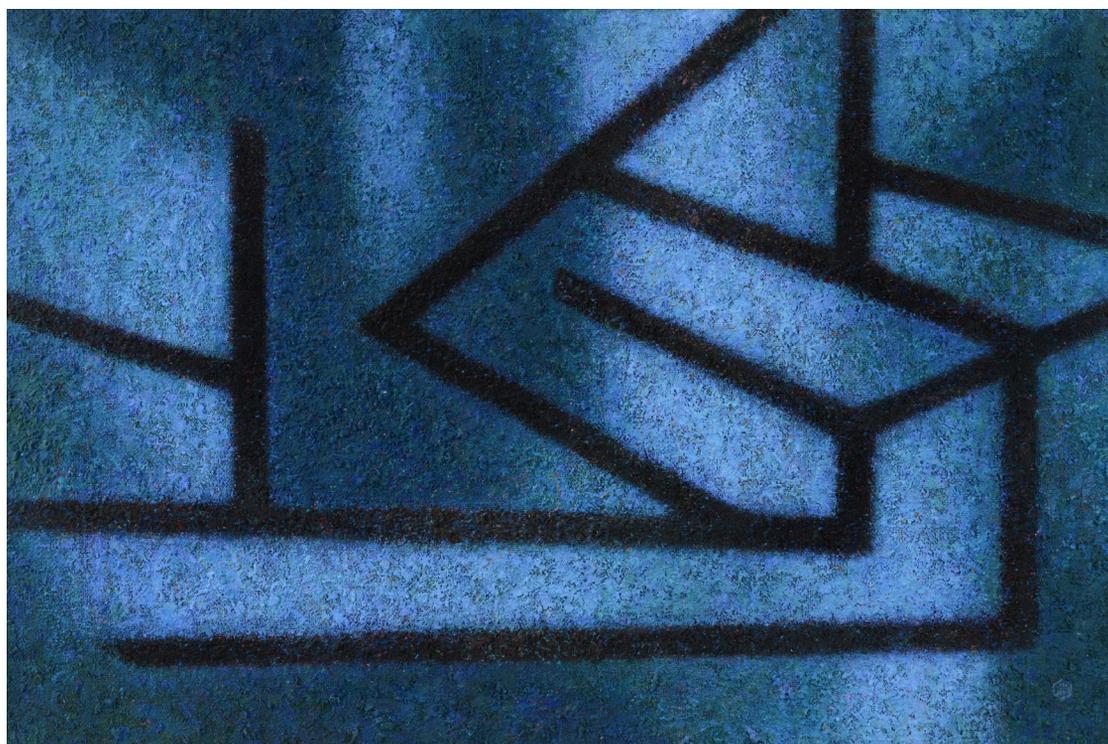


40年ぶりに披露 杉山寧の幻の名品！！

杉山寧「條」1962年



この作品は公の展覧会としては、1987年に東京都近代美術館で開催された「杉山寧展」で出品されたのが最後に、長い間、美術マーケットから姿を消していた作品です。杉山寧の抽象画第一作目となる幻の作品をぜひご覧ください。

取材のお願い

公益財団法人古川知足会古川美術館



古川美術館特別展Collector's exhibition2
「究極と至高 名画で綴る日本の100年」

2023年4月8日(土)～6月18日(日)

展覧会のご案内

各位

平素は格別のご厚情を賜りありがとうございます。

この度、アートコレクターが所蔵する秘蔵コレクションを一堂に展覧するCollector's exhibition3「究極と至高 名画で綴る日本の100年」を古川美術館にて開催します。

横山大観、東山魁夷、前田青邨、平山郁夫、梅原龍三郎、安井曾太郎、レオナルド・フジタなど近現代の日本の美術を彩った画家たちが一堂に揃います。また、杉山寧の抽象画は40年ぶりに公の場に登場する幻の逸品です。

是非とも貴媒体にてご紹介いただきたく、お願い申し上げます。

Topic1 Collector's exhibitionとは

古川美術館のコレクションは初代館長 古川爲三郎の個人コレクションから始まりました。個人コレクターの醍醐味は珠玉の名画を自身の趣向で蒐集し、時を問わず鑑賞できるなど様々にあります。その反面、公共の場で鑑賞する機会が非常に少ないことも挙げられます。しかしこうした秘蔵コレクションが現在の私共のような私設美術館の礎となり、後世に美術を伝えていく役割を担っているのも事実です。そこでこのCollector's exhibitionシリーズでは美術収集家の皆様のご協力を得て、普段目にするのできない美術品を一堂にご紹介します。美術品を次世代へ。そして美しさや感動は人から人へ。時を重ねても色あせない美術品を味わう、それがこのシリーズの醍醐味です。

Topic2 全体的な見どころ

今回は日本の近代、現代をクローズアップします。長いこと鎖国をしてた島国日本に西洋の思考が輸入されたのが明治。世界ではピカソやマティスなどの20世紀美術が開花中、日本はようやく海外からの芸術理念や油画などの技法が伝わり、西洋に遅れること100年、美術の近代化が始まります。西洋文化の移植は日本が近代的な文明国であることを示すために必要不可欠な課題で、それまで100年にわたって中国美術をもとに形成されてきた日本の美術を一新させました。



画像2：梅原龍三郎「浅間山秋色」1951年



画像1：横山大観「日本正気」1941年

油絵は江戸時代後期には日本に伝わっていたものの、後世まで継続せずに日本美術界には根付きませんでした。しかし鎖国が解け、西欧文化が伝わると、油絵の理解と研究が進み、油絵具を使って西洋画の遠近法の習熟を経た絵画表現が定着します。そうした「西洋から来た絵画」と「日本で発展した絵画」を区別するために「洋画」と「日本画」という言葉が誕生します。洋画では西洋の遠近法の実践を試み、それに刺激を受けた日本画では表現の多様化を推し進めていきます。画家たちは感性と技術を追求し、それは日本独自の美術形体を作り上げた現代へ発展します。近代から現代、まさに画家が究極を目指し、至高の美を獲得し、大きく日本の美術が飛躍した時代、それが本展のテーマです。

Topic3 40年ぶりに公開！！



画像3
杉山寧「條」1962年

このコレクターズエキシビションの醍醐味は、突如、美術マーケティングから姿を消した名品が〇〇年ぶりに公の場に登場する事です。そして今回の目玉は杉山寧の「條」。杉山寧は日本画家でありながら、いち早く抽象表現を取り入れた画家です。この作品は寧が支持体（紙）に興味を持ち、日本紙ではなく、洋画のキャンパスのような麻布を使う実験・研究をしていたもの。抽象画表現の第一号であるこの作品を見れば作家たちがあの手この手でアイデンティティを追い求めていたことに気づくはず。

Topic4 レオナルド・フジタの不屈の名作を



画像4 (左)

レオナルド・フジタ「朱いスカートの少女」1949年頃

© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5103

世界的に有名なレオナルド・フジタの作品はなんと2点出品。右図はフジタが乳白色の地を手に入れ、パリの寵児となった記念すべき年に描かれたもの。左図は戦犯を問われたフジタが日本との決別を決意し、渡欧する際、途中でよったニューヨークで描かれたもの。いずれもフジタの画歴の中で重要とされる時代のものだ。

Topic 5 洋画界のスター★梅原龍三郎と安井曾太郎の同時代の作品



画像5 (左)

梅原龍三郎「浅間山秋色」1951年



画像6 (右)

安井曾太郎「静物」1942-43年

同時期に活躍した梅原龍三郎と安井曾太郎は洋画界のスターともいえる存在。生まれ年も出身県も同じ二人が初めて出会ったのは、浅井忠が自宅に開いた画学校でした。すぐお互いの能力を認め合い、親交を深めていきます。

Topic 6 あの名作を！

本展では東山魁夷を複数点展示しています。中でも必見は本作品。東山魁夷が唐招提寺の襖絵の習作として描かれた可能性の高い本作は、東山魁夷が特有の水墨表現を追求した結果、得られた魁夷の唯一無二の表現です。静謐な世界観、漂う神秘的な空気感、見るものを魅了します。美しい群青色の岩絵具が光に照らされ所々キラキラと目に映ります、濃い霧が立ち込める様は奥深い山々が呼吸しているようにも感じられ、まるで目前にその景色が広がっているように！

画像7 東山魁夷「青山白雲」1976年



Topic 7 まとまって見られる平山郁夫！



本展では、平山郁夫の作品を3点展示しています。平山郁夫の特徴的なブルーの美しい作品をそろえました。いずれも日本の京の都を取材したもの。夜更けの静けさを携えた都の様子が美しいブルーの世界観で表現されています。

画像8 平山郁夫「唐招提寺の夜」

Topic 8 美術館の楽しみ方

ギャラリートーク

担当学芸員が作品を解説します。

日時 | 4月9日(日)・29日(土・祝)・5月20日(土)・6月17日(土)
各14:00~(40分)

参加費 | 無料 ※但し、別途入館料必要 会場 | 古川美術館 展示室

予約不要

プチギャラリートーク

展示作品の中から、作家を選び、コンパクトにご紹介します。

日時 | 4月28日(金)平山郁夫・5月12日(金)梅原龍三郎
5月26日(金)東山魁夷・6月9日(金)レオナルド・フジタ 各14:00~(15分)

参加費 | 無料 ※但し、別途入館料必要 会場 | 古川美術館 展示室

予約不要

ミュージアムCafé 数寄屋 de Café では・・・

古川美術館で展示する作品にちなんだ「特製上生菓子」を週替わりでご用意します

和菓子ラインナップ(予定)

4月8日(土)~16日(日) 前田青邨「柳桜」

4月18日(火)~23日(日) 横山大観「日本正気」

4月25日(火)~30日(日) 山口華揚「路」

5月2日(火)~7日(日) レオナルド・フジタ「朱いスカートの少女」

5月9日(火)~14日(日) 杉山寧「絢」

5月16日(火)~21日(日) 東山魁夷「青山白雲」

横山大観
和菓子



レオナルド・フジタ
和菓子



広報使用画像 メールにてお問合せください。mail : n_hayashi@furukawa-museum.or.jp (林 奈美恵)



横山大観「日本正気」1941年



東山魁夷「青山白雲」1976年



杉山寧「條」1962年

展覧会情報

古川美術館特別展

Collector 's exhibition3「究極と至高 名画で綴る日本の100年」

2023年4月8日(土)~6月18日(日) 午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日: 月曜日

会場: 古川美術館

主催: 公益財団法人古川知足会

後援: 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、中日新聞社 CBCテレビ
スターキャット・ケーブルネットワーク(株)

観覧料: 大人1,100円 高・大学生500円 中学生以下無料 (古川美術館単館券: 900円)

【お問い合わせ】

公益財団法人 古川知足会 古川美術館・分館 爲三郎記念館

電話 052-763-1991 FAX 052-763-1994(学芸課)

〒464-0066 名古屋市千種区池下町2丁目50番地

担当学芸員 林奈美恵 (n_hayashi@furukawa-museum.or.jp)